



高槻市総合交通戦略

「交通まちづくり」による住みやすさナンバーワンのまち高槻

平成28年3月

 **高槻市**
Takatsuki City

はじめに

私たちのまち「たかつき」は、大阪と京都の中間に位置し、北は北摂連山に連なる山並みが、南は芥川・桧尾川などによって形成された平野が広がっています。また、鉄道により大阪・京都と結ばれていることや、市営バスが駅から市内各地へと運行していることから、自然豊かで交通利便性の高いまちとして知られています。

本市はこのような交通ポテンシャルの高さとあいまって大阪・京都のベッドタウンとして発展し、人口は昭和35年の約8万人が昭和50年には約33万人へと、15年間で約4倍になるという全国でも有数の人口急増期を経験しました。

しかし、近年の人口減少・超高齢社会の本格的な到来は本市においても例外ではなく、多様化する市民ニーズへの対応が求められていることに加え、持続可能な都市構造を支える交通体系の確立が求められています。

一方で、本年3月にはJR高槻駅に新快速や特急「はるか」が停車する新ホームが供用開始されるとともに、平成28年度に新名神高速道路及び高槻インターチェンジが供用開始される目標となっており、まさに今、本市の交通環境は大きく飛躍しようとしています。

このような背景の中、本市の目指すべき将来都市像を交通の面から支えるため、『交通まちづくり』による住みやすきナンバーワンのまち高槻」を基本理念に掲げた「高槻市総合交通戦略」を策定することとしました。

これを機に、今後はこの総合交通戦略に基づいた市民・事業者・行政による相互の連携・協力を図り、健康で豊かな市民生活を支える「交通まちづくり」に取り組むことで、高齢者、障がい者、子育て世代はもとより、全ての市民が交通で支えられ、充実したくらしを送れるまちを目指していきたいと考えていますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成28年3月

高槻市長

濱田 剛史

